

先生方の疑問にお答えします。

特 別 活 動 Q & A

Q ホームルームでの話し合い活動が活発になりません。

1 A まず、題材や議題が生徒にとって切迫感のあるものになっているか確認が必要です。自分事として捉えられることができないものに積極的に取り組めないのは不思議なことではありません。次に、確認が必要なのは話し合い活動のルールです。これが明確になっていなければ、生徒は思いがあっても様子見をしてしまうのです。生徒はこれまでの経験が一樣ではないため、学年の始めのうちに、話し合い活動のルールを確認しておくことが大切です。そして、何より大事なことは、安心感のあるクラスの雰囲気作りができていくということです。ホームルーム経営とホームルーム活動の強い関係性を再認識なくてはなりません。

Q ホームルームでの話し合い活動の際、つつい教師が口を挟んでしまいます。

2 A 特別活動の特質は集団活動と実践的な活動であり、さらにホームルーム活動と生徒会活動においては、自発的、自治的な活動へと方向付けを助けることが求められています。しかし、自発的、自治的な活動とは「放任」を示すものではありません。話し合いの方向性を修正するときなど、必要な場面ではためらうことなく指導してください。

Q 特別活動の評価、特に集団で活動している場面の評価はどうするのですか。

3 A 特別活動は集団活動を特質の一つにしています。したがって、時には学年を超えて異学年が一つの集団になることもあります。そこで、生徒の変容を見取るためには一工夫が必要です。例えば、ある高校では体育祭の取組の中で、生徒の変容に気付いたある係の担当教師は、その概要を付箋にメモをして、その付箋を担当や学年主任に渡すという営みを通して、集団における生徒の変容を見取っています。自分のクラスの生徒の成長は担任にとってもうれしいものです。その他には、ワークシートを用いた自己評価も効果的です。自己評価は学習活動ですから、そのものを学習評価とすることはできませんが、担任が自己評価を参考として生徒の変容を見取ことは極めて有効です。それを積み重ねてポートフォリオとすれば、中長期的な自己変容を振り返ることもできるのです。

Q 行事の事前・事後学習や〇〇教育でホームルーム活動は一杯いっぱい、つながりがありません。

4 A ホームルーム活動は学習指導要領に示された12の内容項目に照らして実施されなければなりません。単なる学校行事の準備や片付けがホームルーム活動として実施されてはなりません。また、特別活動は、「問題の発見・確認」、「解決方法の話し合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」といった学習過程を経るものですから、50分の一単位と事前・事後学習、学校生活とはつながっているのです。

作成協力者

(五十音順、敬称略)
※職名は平成30年3月現在

齋藤 綾	沖縄県立豊見城南高等学校 教諭	酒井 淳平	立命館宇治高等学校 教諭
長谷川弘和	宮城県利府高等学校 教諭	牧野 美穂	岡山県立津山商業高等学校 教諭
守田 久美	兵庫県立猪名川高等学校 教諭		

本パンフレット作成編集 担当者

※職名は平成30年8月現在

文部科学省 国立教育政策研究所においては、次の者が担当した。

長田 徹	国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官 (併)国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官
------	--

このほか、本パンフレット編集の全般にわたり、国立教育政策研究所においては次の者が担当した。

小松 悌厚	教育課程研究センター長
清水 正樹	教育課程研究センター 研究開発部 副部長
高井 修	教育課程研究センター 研究開発部 研究開発課長
高橋 友之	教育課程研究センター 研究開発部 研究開発課 指導係長
奥田 正幸	教育課程研究センター 研究開発部 研究開発課 指導係 専門職
佐藤 治郎	教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官

学校文化を創る

特別活動

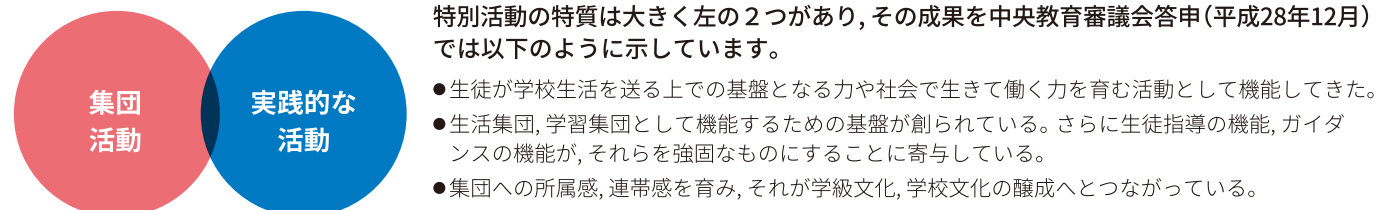
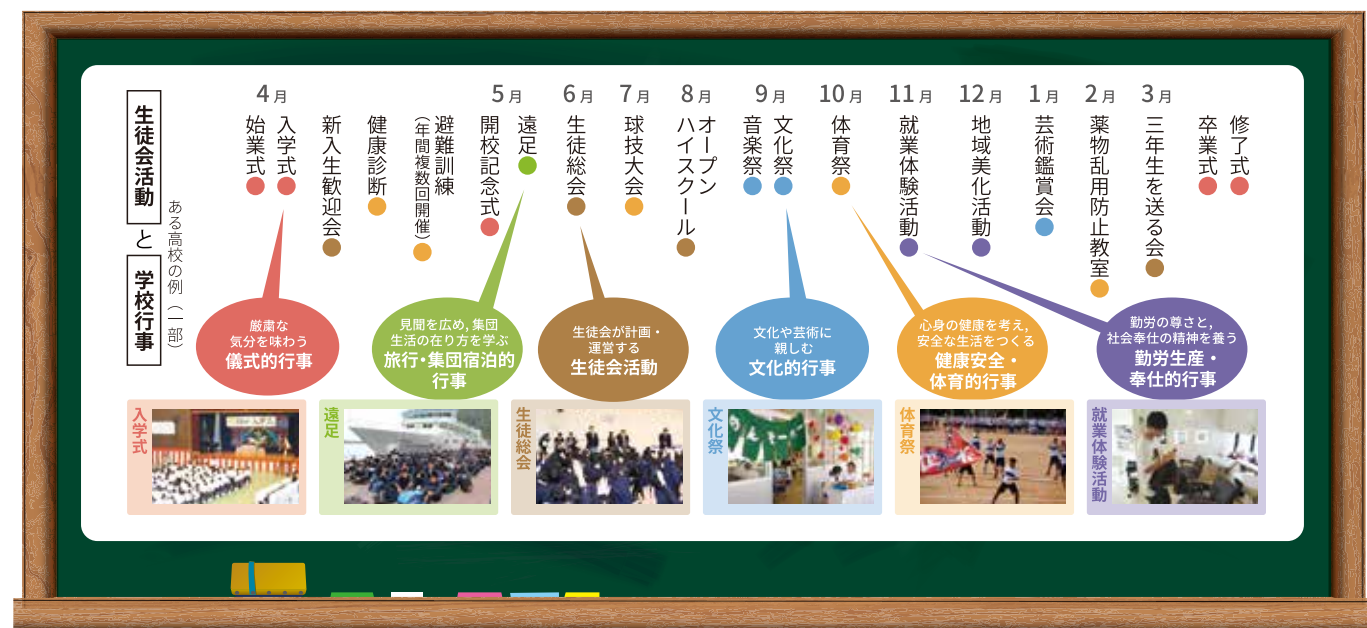
高校編

新学習指導要領
準拠

ホームルーム活動のすすめ



これら全てが「特別活動」なのです



特別活動は日本の学校教育特有のもので、他の国には見られない文化なのです。

特別活動は「2つの活動」と「学校行事」で構成されています

新学習指導要領では特別活動における視点を右の3つに整理しました。
変化の激しいこれからの社会の中で生き抜いていく生徒だからこそ、この3つの視点を大事にしていきたいものです。

新学習指導要領におけるホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の指導で留意すべきポイント

ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事
●合意形成を主とする内容(1)「ホームルームや学校における生活づくりへの参画」を重視する必要があります。 ●意思決定を主とする内容(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」は学校全体のキャリア教育の要の時間です。キャリア・パスポートの活用が有効です。 担任による指導が毎週確保できるようにしなければなりません。 ❓ 教師主体のホームルーム活動になっていませんか。	●生徒が自発的、自治的な活動を実感できるような指導の工夫が求められます。 ●ボランティア活動などを通じて、社会に参画する力の育成が求められています。 ●生徒会役員選挙など主権者教育の実践の場となります。 生徒会とは学校の全生徒をもって組織するものであり、一部の生徒会役員を指すものではありません。 ❓ 生徒会の一員であることを全生徒が自覚できていますか。	●就業体験活動やボランティア活動などの豊かな体験活動の充実が求められています。 ●内容(3)「健康安全・体育的行事」においては特に事件や事故、災害等から身を守ることが明示されました。 体験や学びがその場限りにならないよう振り返りの活動を大切にするとともに、生徒や教師の過度な負担にならないように配慮しなければなりません。 ❓ 「活動あって学びなし」になっていませんか。

「問題の発見・確認」、「解決方法の話し合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」この活動のプロセスを生徒が実感できるような指導を大事にしたいものです。それには…

ホームルーム活動における「話し合い活動」の充実が求められます。

ホームルーム活動のすすめ

ホームルーム活動は(1)(2)(3)の3つの内容があり、集団として進める(1)と、個人として進める(2)(3)の2つに分けることができます。

集団として、
合意形成を進める
自発的、自治的な活動の形態

ホームルーム活動の内容(1)「ホームルームや学校における生活づくりへの参画」や生徒会活動では学校における生活を向上、充実させるために、**集団として合意形成**したり、生徒たちで適切なルールを作ったりするための話し合い活動が考えられます。

個人として、
自己の在り方生き方を**意思決定**していく
自主的、実践的な活動の形態

ホームルーム活動の内容(2)「日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」や(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」では、**個人としての問題解決**に向けた目標や方法などを生徒自身が**意思決定**するための話し合い活動が考えられます。

話し合い活動の基本的な活動過程（生徒の立場で…）



POINT!

集団生活を送る上では様々な問題が生じます。その中には集団全体で合意形成するだけでは解決されない問題があることを理解しなければなりません。また、高校生の発達に応じた合意形成には以下のような留意点があります。

- ① 課題に対して、一人一人が自分なりの意見や意思をもった上で、合意形成に向けた話し合いに臨むようにすること。
- ② 合意形成に基づき実践するに当たって、自分自身に何ができるか、何をすべきかということを主体的に考えて、意思をもつこと。

科目選択の場で、「夢実現の時間割」を作成しよう！

ホームルーム 活動「(3)エ 主体的な進路の選択決定と将来設計」

個人としての活動形態



こんな現状が...

- 将来の見通しがもてず、どの科目を選択すべきか迷っている生徒がいる。
- 科目選択が次年度の時間割作成のためだけのものだと捉えている生徒がいる。
- 一面的な理由(「科目の好き嫌い・得意不得意」)で選択する生徒がいる。

●...生徒の活動 ◆...教師の指導

STEP 1 事前学習と生徒の活動

① 学年職員・科目説明者・担任の準備

「夢実現の時間割」～選択科目決定～
月 日現在 選択したい科目

科目 選択する理由 科目 選択する理由

科目説明会

科目名	何を学べるのか・社会とどうつながっているのか

HRのみんなの考え

科目名	なぜ選択するのか・将来どのように生かしていくのか

- 科目選択が高校生活や進路のためだけではなく、人生におけるキャリア形成にもつながることを生徒が意識できるように計画する。

point!

科目説明者は、生徒が科目と社会とのつながりを実感できるような具体例を挙げます。

- 生徒の意識を高めるため、科目と社会とのつながりに気付けるよう目標を明示したチェックシートを作成する。
- 進路ごとの科目選択例を作成する。
- 「①ホームルーム活動」の際に、生徒からの質問への回答を科目説明者に依頼する。

point!

各学校の実態に合わせて、「選択する科目間のつながり」や「科目と社会とのつながり」を示すと効果的です。

② クラス全員への指導

- 学年全体を対象とした科目説明会(ガイダンス)での疑問点を記録しておく。

- ◆ 科目説明会は一人一人の進路や人生に深く関わっていることを助言する。



- ◆ 科目と社会とのつながりを助言する。

- 次回のホームルーム活動までに、選択科目を決め、その理由も記入する。

- ◆ ワークシートを活用し、事前に「なぜその科目を学ぶのか」を生徒一人一人が考えるよう助言する。

(振り返りを踏まえた)次の活動へ

STEP 4 振り返り

時機を捉えた振り返り

- 考査終了後など時機を見て、「夢実現の時間割」について振り返り、改善する。
- ◆ 選択時の思いや、将来への希望を再確認し、個別指導(カウンセリング)を行う。
- どうすれば行動できるか、どのように行動の修正をするかをペアやグループで共有する。

point!

適宜振り返りを行うことで、生徒の主体的な進路選択・進路決定につながります。

「夢実現の時間割」～選択科目決定～
月 日現在 選択したい科目決定後考えていること

選択科目を考えてみて良かったこと

できなくて困っていること・理由 友達が工夫していること・理由

科目名 何を学んでどんな力をつけるのか 今までやっていなくて新たに何をしていくのか

STEP 2 ホームルーム活動の手順 (2時間実施する場合の例)

① ホームルーム活動

①問題の発見・確認
10min

- 科目選択が将来への意思決定の場であることをクラスで確認する。

- ◆ 全員が「夢実現の時間割」を作成し、時間割に基づいて具体的な行動実践に移すという見通しをもたせる。

- ◆ 意見を交換し合い、考えを深めるよう助言する。



point!

多面的・多角的な見方に気付かせることも大事です。

②解決方法の話し合い
30min

point!
悩んでいるのは自分だけではないことに気付かせることが大事です。

- 個人でどの科目を選択するか、理由も含めて考える。(4～5人グループ作成)

- グループ内でお互いに発表する。
- お互いの選択について意見を交換する。
- 科目の疑問点について共有する。

- ◆ どの科目の先生に、何を聞くのかを決めて、担当者を決めさせる。



③解決方法の決定
10min

- 担当者ごとに、科目の先生に疑問点を聞きに行き、グループ内で共有する。

- 再度、個人で考え、「夢実現の時間割」を手直しする。

② ホームルーム活動

①前時の振り返り
5min

- 前時に手直したそれぞれの「夢実現の時間割」を基に発表することを確認する。

②発表
10～15min

- 4～5人のグループで発表する。

③発表後の話し合い
15min

- グループ内でお互いの発表について話し合う。

- ◆ よかった点、自分の意見との共通点や相違点、自分の考えにも取り入れたい点などを視点に話し合うよう指導する。

point!

前時と異なるメンバーで話し合うことにより、多様な意見に触れ、自らの考えを深めることができます。

④解決方法の決定
意思決定
15min

- 選択した科目と自分の将来とのつながりを意識して「夢実現の時間割」を完成する。

STEP 3 決めたことの実践

「夢実現の時間割」に基づいた行動実践

- 「夢実現の時間割」で決めたことを意識して、日々の授業や学校生活の中で実践する。

point!

各自の「夢実現の時間割」はファイル等にとじ、常に意識できるようにすると効果的です。

